

1 学校運営の中期目標

現状と課題

平成 29 年 1 月に実施した「大阪市小学校学力経年調査 (3～6 年国語・社会・算数・理科の教科に関する調査)」において、各学年の国語・算数における平均正答率はどの学年も大阪市の平均正答率を下回っていた。特に国語の「読む能力」は 4 学年とも 4 ポイント以上下回っていた。

テレビ・ビデオ・ゲームの時間が 1 日 3 時間以上の児童が 3 年 31%・4 年 51%・5 年 46%・6 年 46%と高くなっている。また、授業以外での学習時間がないと回答している児童も各学年で 10%前後いた。また、学習塾に行っていない児童も 4 年生以上は 60%前後おり、家庭での学習習慣の構築を図る必要がある。

あいさつについては昨年度の取り組みで、指導していると効果はあるので、継続的に指導を続ける必要がある。自尊感情・自己有用感に関しては、大阪市小学校学力経年調査の結果で、「自分にはよいところがある」で 70%前後の児童が肯定的に回答している。今後も一人一人を大切にしたい取り組みを進める中で、集団育成を図っていくことが大切であると考えている。

朝食の喫食については大阪市小学校学力経年調査では、毎日食べている児童が 6 年生が 69%となっている以外は 76%を超えている。しかし、食べていない・どちらかといえば食べていない児童は 4 年生の 10%を最大に他の学年も 6～7%いる。体を動かすことについては、好き・どちらかといえば好きと答える児童が増加している。ただ、体力・運動能力テストでは、5 年生の結果ではあるが、長座体前屈 (柔軟性) の結果が、他の項目に比べて大変低くなっている。運動能力を高め、けがを少なくするためにも柔軟性を高めることが必要である。

中期目標**【子どもが安心して成長できる安全な社会 (学校園・家庭・地域) の実現】**

- 一人一人の考えや思いを伝え合い受け止めることができる集団作りを図り、平成 32 (2020) 年度の学力経年調査で、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問への肯定的な回答がどの学年も 80%以上にする。また、「そう思う」についてもどの学年でも 50%以上にする。
- さまざまな人・もの・出来事との出会いを通して、自尊感情や自己有用感を育み、将来に向けた展望を持たせ、平成 32 (2020) 年度の学力経年調査で「自分にはよいところがあると思いますか」の質問への肯定的な回答がどの学年も 75%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成 32 (2020) 年度の学力経年調査において、標準化得点を各学年で 2 教科以上を 100 以上にする。
- 家庭との連携を図り、平成 32 (2020) 年度の学力経年調査において、「学校の宿題をしていますか」の肯定的な回答を全学年で 80%以上にするとともに、「宿題以外に計画を立てて学習をしていますか」のまったくしていないを 20%以下にする。

- タブレット等を活用し、授業を対話的で主体的な学びの場とする工夫を行い、平成 32 (2020)年度の学力経年調査において「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の肯定的な回答を、75%以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」の項目の「当てはまらない」の回答を今後も昨年度と同様に 0 となるようにする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 平成29年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
※ 2月末までの調査で、100%解消しており、目標を上回った。
- 平成29年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を75%以上にする。
※ 3年生91%、4年生85%、5年生91%、6年生84%、全体で88%となり、目標を上回った。
- 平成29年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童（生徒）数を前年度より減少させる。
※ 複数回行った児童は、どちらの年度にもいなかったもので、目標は達成している。
- 平成29年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童（生徒）の割合を前年度より減少させる。
※ 前年度は新たに不登校となった児童は0.4%、今年度は新たに不登校となった児童はいなかったもので0%となり、目標を達成している。

学校園の年度目標

- 防災・減災教育の年間計画を見直し、避難訓練を年間 3 回以上実施する。また校内調査において、「安全な避難方法について考えることができましたか？」の項目を設定し、前期の結果より後期の結果が改善されるようにする。

【安全で安心できる学校、教育環境の実現】

- ※ 後期のアンケートで、肯定的回答が81.8%になった。**
- ドリームリーダー（ゲストティーチャーやボランティアのこと）との出会いの場を設定し、人や職業に憧れる体験を進める。また校内調査において、「ゲストティーチャーやボランティアの人と学習するのは楽しい」の項目を設定し、「そう思う・どちらかといえばそう思う」と答える児童の割合を85%以上にする。【道徳心・社会性の育成】
※ 校内調査では、84.6%となり、わずかに目標に達しなかった。しかし、前期は82.2%であったので、少しではあるが向上してきている。
- 一人一人の違いを認め合う集団作りを行い、課題を抱える児童、特別支援児童、外国につながりをもつ児童等が活躍し、共に生きる態度を育てる。また校内調査において「自分にはよいところがある」「友だちのよいところを見つけることができる」の項目について、「そう思う・どちらかといえばそう思う」と答える児童の割合をどちらも75%以上にする。【道徳心・社会性の育成】
※ 「自分にはよいところがある」は80.0%、「友だちのよいところを見つけることができる」は84.2%となり、どちらも目標を上回った。

- 読書週間や朝の読書の時間を設定し、児童が本に親しみをもてるように学校図書館の活性化を進める。また校内調査において、「読書が好き」の項目を設定し「そう思う・どちらかといえばそう思う」と答える児童の割合を70%以上にする。

【地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】

※ 72.2%となり、目標を上回ることができた。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 平成29年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。（標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ100となるよう標準化した得点のこと）標準化得点＝学校の平均正答率÷大阪市の平均正答率×100
 ※ 3年生は93から100、4年生は96から92、5年生は94から100、6年生は92から97となり、向上が見られる学年があるなかで、課題が見られるところもある。全体としては95から97へと向上した。
- 平成29年度の小学校学力経年調査における正答率54%以下（到達度C）の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。
 ※ 現4年生は18%から23%、現5年生は6%から8%に、現6年生は23%から12%になり、すべての学年での目標達成はできなかった。
- 平成29年度の小学校学力経年調査における正答率75%以上（到達度A）の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
 ※ 現4年生は49%から48%、現5年生は53%から48%、現6年生は38%から50%となり、すべての学年での目標達成はできなかった。
- 平成29年度の小学校学力経年調査（質問紙調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
 ※ 3年生は67%から68%、4年生は69%から71%、5年生は65%から73%、6年生は61%から64%、全校では67%から70%となり、すべての学年で前年度より肯定的に回答する児童が増え、目標達成できた。
- 平成29年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である（長座体前屈）の平均の記録を、前年度より1ポイント向上させる。
 ※ 平成28年度男子29.53、女子34.60が、平成29年度男子27.20、女子32.79となり、目標を達成できなかった。

学校園の年度目標

- 平成29年度後期の学校アンケートにおける「学校で出された宿題以外に、自分で計画を立てて学習（予習・復習など）をしていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を、前期より増加させる。
 ※ 前期は59.0%、後期は61.6%となり、わずかではあるが目標を上回った。
- 平成29年度の養護日誌の記録で校内のけがの件数を前年度より減少させる。
 ※ 前年度は、2月末で1,766件、今年度は2月24日現在で1,872件となり、やや増加となった。

3 本年度の自己評価結果の総括

中期目標について

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 「学校に行くのは楽しい」と答えたのは、3年生 60%、4年生 56%、5年生 53%、6年生 37%、全体では 52%。「どちらかといえば楽しい」を合わせると、3年生 89%、4年生 80%、5年生 89%、6年生 70%、全体では 82%であった。全体としては目標をクリアしているが、高学年になると「楽しい」と答えている率が下がっており、6年生では肯定的な回答が 80%を下回った。高学年でも「学校が楽しい」といえるような充実した取り組みを考えていきたい。
- 「自分にはよいところがある」と思う児童は、3年生 82%、4年生 72%、5年生 77%、6年生 62%、全体では 74%となり、目標の 75%まであと少しである。校内の調査では、高い回答率になってもいるので、さらに取り組みを進めていきたい。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 本年度、標準化得点が 100 を超えたのは、3年生では3教科（国語 100・社会 103・理科 101）、4年生はなし、5年生では3教科（国語 101・社会 101・理科 101）、6年生では1教科（社会 100）となった。向上が見られる学年があるので、今後も基礎的な力・読み取る力をつけることができるような取り組みを進める。
- 「宿題」については、3年生 80%、4年生 84%、5年生 87%、6年生 79%、全体 82%となり、全学年 80%を超えるまで、あと一歩となっている。「宿題以外」を『全くしない』では、3年生 14%、4年生 32%、5年生 13%、6年生 46%、全体 26%となり、20%以下とするには至らなかった。習慣化されるように内容や方法について、継続的に指導していく。
- 「話し合って考えを深めたり、広めたり」については、3年生 68%、4年生 71%、5年生 73%、6年生 64%、全体 70%となり、目標の 75%には届いていない。様々な教科での取り組みを充実させていく必要がある。
- 運動やスポーツが嫌いと回答した5年生が男子 4.8%、女子 7.7%あった。スポーツへの関心の高い児童が多かったが、嫌いだという児童の気持ちを変えることができなかった。

大阪市立西淡路小学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>○ 平成29年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。</p> <p>※ 2月末までの調査で、100%解消しており、目標を上回った。</p> <p>○ 平成29年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童(生徒)の割合を75%以上にする。</p> <p>※ 3年生91%、4年生85%、5年生91%、6年生84%、全体で88%となり、目標を上回った。</p> <p>○ 平成29年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童(生徒)数を前年度より減少させる。</p> <p>※ 複数回行った児童は、どちらの年度にもいなかったもので、目標は達成している。</p> <p>○ 平成29年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童(生徒)の割合を前年度より減少させる。</p> <p>※ 前年度は新たに不登校となった児童は0.4%、今年度は新たに不登校となった児童はいなかったもので0%となり、目標を達成している。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 防災・減災教育の年間計画を見直し、避難訓練を年間3回以上実施する。また校内調査において、「安全な避難方法について考えることができましたか？」の項目を設定し、前期の結果より後期の結果が改善されるようにする。</p> <p>【安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>※ 後期のアンケートで、肯定的回答が81.8%になった。</p> <p>○ ドリームリーダー(ゲストティーチャーやボランティアのこと)との出会いの場を設定し、人や職業に憧れる体験を進める。また校内調査において、「ゲストティーチャーやボランティアの人と学習するのは楽しい」の項目を設定し、「そう思う・どちらかといえばそう思う」と答える児童の割合を85%以上にする。</p> <p>【道徳心・社会性の育成】</p> <p>※ 校内調査では、84.6%となり、わずかに目標に達しなかった。しかし、前期は82.2%であったので、少しではあるが向上してきている。</p>	B

<p>○ 一人一人の違いを認め合う集団作りを行い、課題を抱える児童、特別支援児童、外国につながりをもつ児童等が活躍し、共に生きる態度を育てる。また校内調査において「自分にはよいところがある」「友だちのよいところを見つけることができる」の項目について、「そう思う・どちらかといえばそう思う」と答える児童の割合をどちらも75%以上にする。 【道徳心・社会性の育成】</p> <p>※ 「自分にはよいところがある」は80.0%、「友だちのよいところを見つけることができる」は84.2%となり、どちらも目標を上回った。</p> <p>○ 読書週間や朝の読書の時間を設定し、児童が本に親しみをもてるように学校図書館の活性化を進める。また校内調査において、「読書が好き」の項目を設定し「そう思う・どちらかといえばそう思う」と答える児童の割合を70%以上にする。 【地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>※ 72.2%となり、目標を上回ることができた。</p>	
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	<p>進捗状況</p>
<p>取組内容①【施策番号1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>○ 生活安全部会を実施し、児童の生活の様子や、いじめや暴力行為等について情報を共有する。</p> <hr/> <p>指標・ 校内のいじめアンケートを学期に1回実施し、認知したいじめについて話を聞き対応する。</p> <p>・ 学校生活アンケートを前期と後期に行い、その結果をまとめ、指導に生かす。</p>	<p>B</p>
<p>取組内容②【施策番号1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>○ 家庭や地域と連携を図り、登校指導を行う。</p> <p>○ 必要に応じて、家庭に連絡したり家庭訪問をしたりなど、児童の看護体制を充実させる。</p> <hr/> <p>指標・ 校内調査において、新たに不登校になる児童（生徒）の割合を前年度より減少させる。</p>	<p>A</p>
<p>取組内容③【施策番号1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>○ 防災・減災教育の年間計画を見直し、避難訓練(引き渡し訓練も含む)を実施する。</p> <p>○ 自ら危険を回避するために主体的に行動する態度を育成する。</p> <hr/> <p>指標・ 避難訓練を年3回以上実施する。</p> <p>・ 学校生活アンケートを2回実施し、「安全な避難方法について考えることができましたか」の項目で、前期より後期の結果が上回るようにする。</p>	<p>B</p>
<p>取組内容④【施策番号2、道徳心・社会性の育成】</p> <p>○ 学習内容に合わせて、ドリームリーダー(ゲストティーチャーやボランティアのこと)との学習の場を設定し、人や職業に憧れる体験を進める。</p> <hr/> <p>指標・ 各学年でゲストティーチャーを招いての学習を実施する。</p> <p>・ 校区や区内・市内の施設見学や会社・工場の見学等を各学年で実施する。</p>	<p>B</p>

<p>取組内容⑤【施策番号２、道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一人ひとりの違いを認め合う集団作りを行い、課題を抱える児童、特別支援児童、外国につながりをもつ児童等が活躍し、共に生きる態度を育てる。 ○ 多文化交流会を計画実施し、世界の様々な文化にふれ、違いを認め合うことができる集団の育成に取り組む。 ○ 仲間を考える集会、週間を通して相手のことを理解し思いやれる心情を育てる。 ○ 異学年交流会を通して、互いの違いを認め理解し合う態度を育てる。 <hr/> <p>指標・ 仲間を考える集会・週間を年に２回設定し、取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多文化交流会（グローバルフェスタ等）を実施する。 ・ 児童についての共通理解を図る研修の場を年に３回以上実施する。 	A
<p>取組内容⑥【施策番号３、地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 読書週間を実施する。 ○ 朝の読書、読み聞かせの時間を設定する。 <hr/> <p>指標・ 学校図書館を週８回、開館する。</p>	B
<p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 毎月生活安全部会を行い、いじめや暴力行為等について情報を共有してきた。アンケートの結果だけではなく児童の変化に気づいたらすぐに対処できるように情報を共有してきた。 ② 地域の方や保護者、教職員の協力を得て児童の登校を見守り続けることができた。あいさつの意識も高まり、校内調査では８６％の児童が肯定的な回答を行った。不登校児童についても情報を共有できている。 ③ 避難訓練（引き渡し訓練も含む）を年間３回、計画通り実施することができた。校内調査は後期しか実施できていないが、肯定的な回答が８０％をこえた。 ④ 昔遊びや藍染め、たたき染めなど地域の方々に来ていただきまた、スポーツ団体や車いす教室など多岐にわたってゲストティーチャーを招き、様々な学習や体験を行った。校内調査では、８４．６％となり目標値にわずかに足りなかったが、それぞれの活動で児童はとても良い経験をすることが出来た。 ⑤ 一人ひとりの違いを認め合う集団づくりとして、多文化共生の交流会グローバルフェスタを行ったり、地域の施設の訪問・交流を行ったりして、互いの違いについて理解し、認め合うことが出来ている。また、教職員の共通理解として児童理解の場を学期に一回行った。その結果、「自分にはよいところがある」は８０．０％「友達のよいところ」は８４．２％となりどちらも目標を上回ることが出来た。 ⑥ 読書については、「読書が好き」のアンケートで７２．２％となり、目標値を上回ることが出来た。しかし、学年が上がるにつれて、読書離れが増える傾向にある。読み取りの文章自体が難しくなるということもあるが、活字嫌いを増やさないためにも、朝の読書や読み聞かせの取り組みを継続していきたい。そして新たな読書習慣や楽しさが身につく手立てを考えたい。 	

次年度への改善点

○今年度の校内調査の結果や年度末の反省事項から、児童の実態に合わせた改善策を模索していく必要がある。特に生活習慣に関することやルール・マナーに関することについては今年度、事例が多かったため計画的に啓発を進めていかななくてはならない。

○どの項目も、学年が上がるにつれて下がっていく傾向にある。自己肯定感については、様々な体験や行事を通して達成感を味あわせていきたい。具体的には高学年に、1年生や2年生の学習のお手伝いなどを行うことによって、自己効力感を育てていく、などの実践を行っていく。また、読書については、朝読書や読み聞かせと同時にもう一度全校で「群読」などを行い、読むことに力を入れていくことが大事だと思われる。

大阪市立西淡路小学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○ 平成29年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。 （標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ100となるよう標準化した得点のこと）標準化得点＝学校の平均正答率÷大阪市の平均正答率×100</p> <p>※ 3年生は93から100、4年生は96から92、5年生は94から100、6年生は92から97となり、向上が見られる学年があるなかで、課題が見られるところもある。全体としては95から97へと向上した。</p> <p>○ 平成29年度の小学校学力経年調査における正答率54%以下（到達度C）の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。</p> <p>※ 現4年生は18%から23%、現5年生は6%から8%に、現6年生は23%から12%になり、すべての学年での目標達成はできなかった。</p> <p>○ 平成29年度の小学校学力経年調査における正答率75%以上（到達度A）の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。</p> <p>※ 現4年生は49%から48%、現5年生は53%から48%、現6年生は38%から50%となり、すべての学年での目標達成はできなかった。</p> <p>○ 平成29年度の小学校学力経年調査（質問紙調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>※ 3年生は67%から68%、4年生は69%から71%、5年生は65%から73%、6年生は61%から64%、全校では67%から70%となり、すべての学年で前年度より肯定的に回答する児童が増え、目標達成できた。</p> <p>○ 平成29年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である（長座体前屈）の平均の記録を、前年度より1ポイント向上させる。</p> <p>※ 平成28年度男子29.53、女子34.60が、平成29年度男子27.20、女子32.79となり、目標を達成できなかった。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 平成29年度後期の学校アンケートにおける「学校で出された宿題以外に、自分で計画を立てて学習（予習・復習など）をしていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を、前期より増加させる。</p> <p>※ 前期は59.0%、後期は61.6%となり、わずかではあるが目標を上回った。</p>	C

<p>○ 平成 29 年度の養護日誌の記録で校内のけがの件数を前年度より減少させる。 ※ 前年度は、2 月末で 1,766 件、今年度は 2 月 24 日現在で 1,872 件となり、やや増加となった。</p>	
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	<p>進捗状況</p>
<p>取組内容①【施策番号 5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 ○ 友達と相互作用が起こるような協働的な活動を授業に取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）を推進する。</p> <hr/> <p>指標・ 協働学習できる課題解決のためのペアやグループ学習を 3～6 年は月に 1 回、1・2 年は、学期に 1 回以上取り入れる。 ・ 学びをデザインするための一つの手段として自主学習を週に 1 回以上する。 ・ 主体的にかかわりながら、知識や情報を構成していくための手段として、学期に 1 回以上 ICT や図書を利用する。</p>	<p>A</p>
<p>取組内容②【施策番号 6、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 ○ 小中一貫教育を推進し、6 年生の中学校登校を昨年度（20 回）程度実施する。また、教職員の研修会を実施するとともに、授業研究会の相互参加を行う。</p> <hr/> <p>指標・ 6 年生の中学校登校を 20 回程度実施する。 ・ 行事による交流について検討する。 ・ 小中合同の教職員の全体研修会を 1 回以上行う。 ・ 互いの授業研究会に参加する。</p>	<p>B</p>
<p>取組内容③【施策番号 6、国際社会において生き抜く力の育成】 ○ 本年度「意欲的に学び続ける児童の育成～ICT を活用し学びに向かう力を育てる学習活動の工夫～」を研究主題とし、授業研究に取り組む。</p> <hr/> <p>指標・ 実施計画どおり（別紙参照）各学年で年間 1 回以上の授業研究に取り組み、年間 2 回の ICT 学校公開を実施する。</p>	<p>A</p>
<p>取組内容④【施策番号 7、健康や体力を保持増進する力の育成】 ○ 体づくりの運動や主運動につなぐための基礎感覚づくりの運動を体育の授業のアップタイムに 5 分間取り入れる。 ○ けがなく安全に生活する方法を指導するとともに。校内の環境を整備する。</p> <hr/> <p>指標・ 基礎感覚づくりの運動を取り入れた準備運動ガイドを 6 月までに作成する。 ・ けが予防の指導や環境の整備をその都度行う。 ・ 健康委員会を中心に、その都度全校に呼びかける。 ・ 校内安全点検を月 1 回行う。</p>	<p>B</p>
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容①③ 計画どおり、各学年で年間 1 回以上の授業研究に取り組み、年間 2 回の ICT 学校公開を実施することができた。 ICT を活用することで、協働的な活動を取り入れた授業を展開することができたといえる。また協働的活動を行うことで、他者の考えに触れ、自分の考えが深まったという相互作用が見られたが、全体の間では自分の考えを自信をもって伝えることができないと答える児童もいる。原因の一つに、伝えるための語彙表現が少ないからではないかと考えられる。</p>	

自主学習については、週に 1 回以上はおこなっている児童は多いが、アンケート（家庭で宿題以外で学習をしているか）結果で「している」と答えた児童は 61.6%に留まった。

取組内容②

6年生の中学校登校を計画通り実施することができた。また東淀川人権教育研究会を活用し研究授業を行ったり、相互授業参観したりした。また、児童会・生徒会の取り組みとして、あいさつ運動を行った。

取組内容④

けがをする児童が昨年度より増加した。

そのため、健康委員会が、多かったケガの種類などをもとに、「けがに気をつけよう」と呼びかけた。また体育の授業でのけがをなくすために、準備運動やアップタイムに取り入れるとよい動きなどを授業用パソコンに保存し、来年度活用に向けて作成した。

次年度への改善点

取組内容①③

協働的な活動によって深まった自分の考えを伝えることができるように、読書する時間を確保し、いろいろな文章表現や語彙を増やす必要がある。さらに「主体的・対話的で深い学び」をめざし、基盤となる「学び合い」ができる学級集団をつくり、一人一人の学力が向上する授業の研究をすすめる。

自主学習においても、昨年度より自発的に取り組む意欲を高めるために、仕方を工夫する。

(1) 自主学習後にその成果が見られると意欲につながると考えられるため、「予習・復習」を中心に自主学習に取り組む。

(2) 楽しみながら、自主学習に取り組むために、一人一人の興味関心を引き出し、内容を多様化する。

取組内容②

今後、6年生の中学校登校を実施するとともに、小中一貫教育を推進するために必要な教職員の研修会や相互参観を計画する。

取組内容④

それぞれの学年・学級で多いけがの理由を分析し対策を練ることで、今年度よりけがの件数を減らす。体育科では、授業用パソコン内の準備運動やアップタイムの資料を参考にし、授業中のけがをなくすよう努める。

また、教室での学習中、初めは意欲的に取り組んでいても、後半になると集中力が途切れてしまう児童がいる。日々の生活習慣を見直し、体を支えるための体幹を鍛えることが必要であると考えられる。

平成 29 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立西淡路小学校 学校協議会

1 総括についての評価

学力や体力、道徳心の育成など、子どもたちの「生活習慣」が深くかかわっている。地域で永年取り組んでいる「遅刻 0」運動などを、より発展させ、望ましい生活習慣が確立できるようにすることが大切である。特にテレビ・スマホなどの画面を見ている時間が長いので、学校・地域・PTA でも議論を進めてほしい。アクティブ・ラーニングについても、学校全体でしっかり進めてほしい。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

<p>年度目標：【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>○ 平成 29 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。</p> <p>○ 平成 29 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を 75% 以上にする。</p> <p>○ 平成 29 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童（生徒）数を前年度より減少させる。</p> <p>○ 平成 29 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童（生徒）の割合を前年度より減少させる。</p> <p>◎ 防災・減災教育の年間計画を見直し、避難訓練を年間 3 回以上実施する。また校内調査において、「安全な避難方法について考えることができましたか？」の項目を設定し、前期の結果より後期の結果が改善されるようにする。【安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>◎ ドリームリーダー（ゲストティーチャーやボランティアのこと）との出会いの場を設定し、人や職業に憧れる体験を進める。また校内調査において、「ゲストティーチャーやボランティアの人と学習するのは楽しい」の項目を設定し、「そう思う・どちらかといえばそう思う」と答える児童の割合を 85% 以上にする。【道徳心・社会性の育成】</p> <p>◎ 一人一人の違いを認め合う集団作りを行い、課題を抱える児童、特別支援児童、外国につながりをもつ児童等が活躍し、共に生きる態度を育てる。また校内調査において「自分にはよいところがある」「友だちのよいところを見つけることができる」の項目について、「そう思う・どちらかといえばそう思う」と答える児童の割合をどちらも 75% 以上にする。【道徳心・社会性の育成】</p> <p>◎ 読書週間や朝の読書の時間を設定し、児童が本に親しみをもてるように学校図書館の活性化を進める。また校内調査において、「読書が好き」の項目を設定し「そう思う・どちらかといえばそう思う」と答える児童の割合を 70% 以上にする。</p> <p>【地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p>

- ・ 達成状況の評価については妥当である。新たな不登校児童はいないということだが、登校しづらい児童については中学校との小中一貫の取り組みを通して、中学校での新たな不登校生徒にならないようにしてほしい。何かに取り組み、できたという経験をすることで、意欲的にもなれるはずなので、今後も様々な出会いを生かし、最後までやりきる取り組みを続けてほしい。
- ・ 目標には上がっていないが、テレビ・ゲーム・スマホについては、使用時間が非常に長くなっている。使わせないということは、今の時代、できないが、正しく使うことについて指導を進めたり、学校・PTA・地域で議論したりしてほしい。

年度目標：【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成 29 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。（標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ 100 となるよう標準化した得点のこと）標準化得点＝学校の平均正答率÷大阪市の平均正答率×100
- 平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 54%以下（到達度 C）の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。
- 平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 75%以上（到達度 A）の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。
- 平成 29 年度の小学校学力経年調査（質問紙調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- 平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である（長座体前屈）の平均の記録を、前年度より 1 ポイント向上させる。
- ◎ 平成 29 年度後期の学校アンケートにおける「学校で出された宿題以外に、自分で計画を立てて学習（予習・復習など）をしていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を、前期より増加させる。
- ◎ 平成 29 年度の養護日誌の記録で校内のけがの件数を前年度より減少させる。

- ・ 達成状況については妥当である。経年調査を見ると、各学年標準化得点が上がってきている。その中で 4 年生の値が気になる。教科の内容的に難しくなる学年でもあると思うが、状況をしっかり分析して、次年度の取り組みを進めてほしい。
- ・ 中学校の部活動プレ入部は、小学校の先生と中学校の先生と一緒に指導にあたっているのはいいことだと思う。中学校の先生の部活動における専門性が、小学生の運動・スポーツへの興味関心・技能の向上に有効だと思う。
- ・ 授業へのアクティブ・ラーニングの導入はどの程度進んでいるのか。経年調査では、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、目標を達成しているが、「体力・運動能力、運動習慣調査」を見ると、体育科では話し合うことが少なく、できたきっかけも先生によるアドバイスが多くなっている。全教科いっしょに進めるのは難しいかもしれないが、着実に「主体的・対話的で深い学び」を実現できるような授業づくりを目指してほしい。

3 今後の学校園の運営についての意見

- 「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、アクティブ・ラーニングを学校全体で取り組み、全教科いっしょに進めるのは難しいかもしれないが、着実に授業改革を進めてほしい。
- 読書の時間を増やす、自主学習の習慣をつける、外遊びをする時間をしっかりとって体力の向上を図るなど、課題となっていることを達成していくためにもスマホ・テレビ・ゲームの時間を減らせるよう学校・PTA・地域で議論する機会を設定できないか考えてほしい。

※シートが1枚に収まらないときは、複数枚になってもさしつかえありません。